

Announcement



01

The Case Study House Program

1945年、ロサンゼルス建築雑誌『アーツ&アーキテクチャ』の編集長ジョン・エンテンザは、新しい戦後住宅の提案を求めてケース・スタディ・ハウス (CSH) プログラムを発表した。1966年までに、建築家たちによる36の革新的な住宅案が発表され、そのうち25が実際に建設された。なかでもイームズハウス (CSH #8) とスタール邸 (CSH #22) は、特によく知られている。CSHの影響は『アーツ&アーキテクチャ』誌を通して、アメリカだけでなく日本やヨーロッパにも波及した。

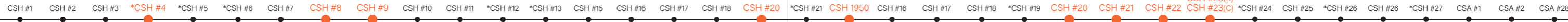
第二次世界大戦後のアメリカでは、多くの帰還兵の住宅不足を解消し、民間産業を活性化するために戸建住宅の建設は喫緊の課題だった。CSHプログラムも南カリフォルニアの標準的な住宅のモデルとなるよう工業化された機能的な住宅の提案を目指していた。LDKを中心に、寝室と浴室が二つずつという核家族を想定した住宅は、より多くの人に見てもらうため、竣工から一定期間は家電や家具を備えた状態で一般公開された。イームズハウスは、既成の工業製品を使ってより良い暮らしを実現するためにデザインされたCSHの代表作である。

ケース・スタディ・ハウス・プログラム アナウンスメント

1. 南カリフォルニアの住宅の建築基準を満たすこと
2. 敷地の条件やクライアントの要望を満たすこと
3. 個々の住宅は単なる作品ではなく、複製可能であること
4. 竣工した住宅は、6~8週間、一般公開すること
5. 建築家とデザイナーと家具製造会社が協力して、家具をしつらえること
6. 新しい建材や工法の技術を取り入れること
7. 平均的なアメリカ人が建設可能な住宅として適切な材料を用いること
8. 『アーツ&アーキテクチャ』に作品を掲載すること

全ケース・スタディ・ハウスと主要作品

- 設計開始年順、括弧内は設計期間および竣工年
- *がついているものは未施工
- ナンバリングルールに変更があったため、#19を除いて、#16から#21までと#26が重複している
- #14と#19は欠番
- CSAはCase Study Apartmentの略で、集合住宅
- 作品数については「CASE STUDY HOUSES:THE COMPLETE CSH PROGRAM」を参照した



CSH #4
(1945)
ラルフ・ラプソン



CSH #8
(1945-1949)
チャールズ&レイ・イームズ



CSH #9
(1945-1949)
チャールズ・イームズ・エーロ・サーリネン



CSH #20
(1947-1948)
リチャード・ノイトラ



CSH 1950*
(1950)
ラファエル・ソリアーノ



CSH #16
(1952-1953)
クレイグ・エルウッド



CSH #20
(1958)
バフ、ストラウプ&ハンスマン



CSH #21
(1958)
ピエール・コーニグ



CSH #22
(1959-1960)
ピエール・コーニグ



CSH #23 (A)(B)(C)
(1959-1960)
キングワース、プレディ&スミス

ケース・スタディ・ハウスとその周辺の系譜

第一次世界大戦 (14-18)

第二次世界大戦 (39-45)

1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960

・02 日英同盟
・03 ライト兄弟初飛行

・29 世界大恐慌
・31 満州事変

・33 ニューディール政策
・33 ナチス政権獲得

・45 『アーツ&アーキテクチャ』誌面上でCSHアナウンスメント

・51 サンフランシスコ講和条約

・59 キューバ革命

・62 キューバ危機

・61 ベルリンの壁

世界

近代建築の父と呼ばれたワグナーが教鞭をとるウィーン工科大学で、ノイトラとシンドラーは学んだ

オットー・ワグナー

アメリカ東部/中西部

『ワイセンプーフ・ジードルンク』小規模住宅の展示/1927
ミス・ファン・デル・ローエル・コルビュジェ
ヴァルター・グロピウスらが出品

クリスタルハウス/1934/ウィリアム・ケック、ジョージ・F・ケック
明日の住宅 (1933) と同じく、シカゴで開催された『進歩の世紀博/明日の住宅展』で展示された鉄骨フレーム、スチールの床、店舗用ガラス、シートメタルで構成された実験的な住宅

クランブルック美術アカデミー/1932/エリエル・サーリネン

カリフォルニア

キャンブル邸/1908/グリーン&グリーン

ドッジ邸/1916/アーヴィング・ギル

ロヴェル邸/1929/リチャード・ノイトラ

シンドラー自邸+スタジオ/1922/ルドルフ・シンドラー

タリアセンイースト/1911/1914/1925
フランク・ロイド・ライト

ダンスミュージアム・アパートメント/1937/エリエル・サーリネン

エリエル・サーリネンがキャンパスの設計を担当し、初代校長を務めた(1932-1946) クランブルック美術アカデミーで、エーロ・サーリネンとチャールズ、レイ・イームズ、ラプソンは学んだ

エルウッドとコーニグはソリアーノの事務所 で働いた経験を持つ

ソリアーノはノイトラの事務所 で働いた経験を持つ

日本

広瀬 謙二は『アーツ&アーキテクチャ』1955年3月号で、Three Japanese Houses HIROSE KENJI という記事で紹介された

SH-1/1953/広瀬 謙二

私の家/1954/清家 清

『国際デザイン会議 (アスペン)』/1951

『国際デザイン会議 (東京)』/1960
ジャン・フルーヴェ、ルイス・カーンらとともに、ラファエル・ソリアーノ (CSH 1950) も来日し、講演した

● ジュリアス・ラルフ・デビッドソン CSH #1, #11, #15

● サムナー・スボルディング&ジョン・レックス CSH #2

● ウィリアム・ウィルソン・ワースター&テオドール・ベルナルディ CSH #3

● ラルフ・ラプソン CSH #4

● チャールズ・イームズ CSH #8, #9

● エーロ・サーリネン CSH #9

● ケムパー・ノムランド&ノムランド・ジュニア CSH #10

● ホットニー・スミス CSH #5, #12

● ソートン・アペル CSH #7

● エルウッドとコーニグはソリアーノの事務所 で働いた経験を持つ

● ラファエル・ソリアーノ CSH 1950

● リチャード・ノイトラ CSH #6, #13, #20, #21

● ロドニー・ウォーカー CSH #16, #17, #18

● クレイグ・エルウッド CSH #16, #17, #18

● ドン・ノル CSH #19

● バフ・ストラウプ&ハンスマン CSH #20

● ビエール・コーニグ CSH #21, #22

● アーチボルト・クインシー・ジョーンズ&フレデリック・エモンス CSH #24

● キリングワース、プレディ&スミス CSH #23(A), #23(B), #23(C), #25, #26

● デイビッド・ソーン CSH #26

● キリングワース、プレディ&アソシエイツ CSA #2

● キャンベル、ウォン&アソシエイツ CSA #27

● ビードル&デイリー CSA #28

● バフ&ハンスマン CSA #28

● キャンビー邸/1967/レーモンド・キャンビー
キャンビーは開放的な木造住宅を多数設計した
また1972年にSCI-Arc (南カリフォルニア建築大学) を設立した

Case Study House Program 1945-1966

*この項、「CSHを年に1作品とする」というルールが設けられたため、1950は番号ではなく西暦年で呼ばれている。しかしすぐに元のルールに戻ったため、これが西暦年で呼ばれる唯一のCSHとなる